

大阪狭山市水循環協議会（第1回） 議事録

開催日時	令和4年8月1日（月） 14時00分～15時40分
開催場所	大阪狭山市立子育て支援・世代間交流センター2階 会議室
出席者	遠藤崇浩委員（会長）、上田萌子委員（副会長）、木村匡臣委員、 上田和徳委員、山村歳幸委員、菊屋英一委員、西井兼一委員、松川元英委員、 塩屋泰一委員、宍戸英明委員、矢幅保宏委員、栗林禎輔委員
欠席者	上田幸男委員、松原一弘委員
事務局	水資源部長、水資源部治水対策グループ課長、水資源部治水対策グループ課 長補佐、水資源部治水対策グループ参事、水資源部治水対策グループ主事
傍聴者	0名
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶（古川照人大阪狭山市長） 3 大阪狭山市水循環協議会 委員の委嘱状交付 4 大阪狭山市水循環協議会 委員及び同事務局の紹介 5 大阪狭山市水循環協議会 会長の選出について 6 大阪狭山市水循環協議会 副会長の選出について 7 諮問について 8 大阪狭山市水循環協議会 説明資料について 9 意見交換 10 閉会
配布資料一 覧	<p>資料1 大阪狭山市水循環協議会委員名簿</p> <p>資料2 大阪狭山市水循環協議会（第1回）出席者名簿</p> <p>資料3 大阪狭山市水循環協議会規則</p> <p>資料4 令和4年度 大阪狭山市水循環協議会（第1回）説明資料</p> <p>資料5 大阪狭山市水循環計画スケジュール</p> <p>資料6 大阪狭山市水循環計画についてのアンケート（案）</p>

議事の経過	
発言者	発言の内容
事務局	<p>1. 開会</p>
事務局 市長	<p>2. 挨拶（古川照人大阪狭山市長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古川照人大阪狭山市長よりごあいさつを申し上げます。 ・本日8月1日は「水の日」であり、これにふさわしく第1回目の水循環協議会を開催する。 ・大阪狭山市は、これまでも水をテーマに色々なまちづくりを進めてきた。 ・昨今の水に関わる様々な問題、意識等が変化する中、大阪狭山市として水をキーワードにしたまちづくりの基本的な方向性を示す、水循環計画を策定する運びとなった。 ・昔はため池や水辺、河川などが身近な生活の中にも密接した関わりとしてあったが、現在、様々な問題の中、本当に身近な存在として水辺空間があるのかという点では疑問も出てくる。 ・居心地が良く快適な利便性のあるまちづくり、環境問題・SDGsという考え方、水という限りある資源の再利用などに対して、私たちの暮らしの中でいかに関わっていくかといったようなことも考えて、本計画を作り上げていきたい。・よりよい計画を策定するためにいろいろな経験をお持ちの皆さん、団体の代表の皆さんから忌憚のない意見をいただきたい。
事務局 市長	<p>3. 大阪狭山市水循環協議会 委員の委嘱状交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古川市長から、各委員に委嘱状の交付を行う。 ・古川市長より、協議会の委員を代表して、大阪狭山市自治会地区会連合会会長の山村歳幸様に委嘱状を手交した。
事務局	<p>4. 大阪狭山市水循環協議会 委員及び同事務局の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の紹介 ・資料の確認 ・本協議会につきましては、『審議会等の会議の公開に関する指針』及び『大阪狭山市水循環協議会の公開に関する基本方針』によりまして、原則公開となり、議事録につきましても公開していくこととなる。よろしいか。 (異議なしの声) ・本日の協議会は、委員14名中12名のご出席をいただいているため、大阪狭山市水循環協議会規則第6条第2項の規定により会議が成立している。

委員	<p>5. 大阪狭山市水循環協議会 会長の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪狭山市水循環協議会規則第5条第2項の規定により、委員の互選によってこれを定めるとされておりますので、会長の選出をお願いしたいと思えます。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 大阪公立大学の遠藤先生をお願いしてはいかがでしょうか。 (異議なしの声)
会長	<p>6. 大阪狭山市水循環協議会 副会長の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> 水循環協議会 副会長の選出についてですが、副会長につきましても規則によりまして、委員の互選により選出することになっております。ご推薦などがあれば、お願いします。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 上田萌子委員をご推薦したいと思いますが、いかがでしょうか。 (異議なしの声)
事務局 市長	<p>7. 諮問について</p> <ul style="list-style-type: none"> 古川市長から、大阪狭山市水循環計画の策定について諮問を行う。 諮問書を読み上げ、遠藤崇浩会長に諮問書を手交する。
事務局	<p>8. 大阪狭山市水循環協議会 説明資料について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料説明
会長 事務局	<p>9. 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日の会議は最低限何を決めれば終わりになるのか。 説明資料の分からない箇所やそれぞれの立場から考える大阪狭山市の水問題等を自由にご意見いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> スライド P18 の雨水計画の概要に西除川第三排水区が2つある。スライド P30 に自治会の記載がない。自治会は地域の基盤であり、全ての団体・社会がこれを元に動くものである。重要な組織であり、都市マスタープランでも自治会は NPO などと並んで同様の取扱いがなされていた。今回の水循環計画においても明確な位置付けをお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 正式には図中の紫色のところは西除川第二排水区である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> アンケートについては、高齢者の意見をくみ取る窓口が少ない印象。説明

事務局	<p>にもあったように幅広く各世代の意見を拾うなら、スマホ・PC・市役所窓口での投函以外のアンケート回収手法が必要ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方にも気軽にご参加いただけるようにしっかりと考えていく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第三中学校・南中学校二つの円卓会議が共同して「大阪アドプト・リバー・三津屋川を美しくする会」として、三津屋川の清掃活動を続けている。一方、現状はコロナ禍があり、ここ2、3年活動ができておらず、草が多く繁茂してしまっている。これからも、がんばって昔の美しい三津屋川にしていきたいと考えているので、本計画の策定にあたり、円卓会議としてこのような取組を継続して行っていることは認識しておいていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・狭山池まつり実行委員会では、毎週第4土曜日に狭山池クリーンアクションとして、20年程にわたり狭山池の清掃活動を続けている。7月のクリーンアクションを実施した際に、池干の時のように水位が下がっていた。今迄に見たことのない、先程も水収支の説明があったが、降雨量が減少すると収支がマイナスになってしまうのではないかと危惧したところである。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の情報は非常に大事であり、引き続き提供いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年迄は市の水道事業として実施していたが、今後の人口減少や将来的な施設更新・防災対策の実施のため、昨年度から企業団事業としている。資料中にも年間約630万m³/年の給水を行っている旨の記載があったが、安定した給水を担いつつ、将来課題としての人口減に伴う経営悪化や、施設の老朽化、自然災害対応も見据えている。こういった取組について計画へ反映できれば良いと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の説明を伺って、住み心地の良い、市域ににぎわいを創出・活性化することが、水循環計画を策定することのポイントになっているような印象を強く受けた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・土木事務所長個人としての問題意識を3つあげたい。 ・降雨が少ないと河川やため池の水位も下がり、水辺創造が難しいということになる。狭い意味での水循環として、地域内での水を保つためにどの

	<p>ように取り組んでいくかということが1つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム本体の根本的な賑わいづくりをどのように取り組むかが2つ。 ・我々は河川を管理しているが、二律背反するようなこともある中で、流域治水としてどのような取組を行うことで、水辺豊かな大阪狭山市が持続的に維持できるのかということが3つ。 ・これら3つの問題意識を本水循環計画に盛り込めればよいのではと思っている。 ・また、やみくもにため池を廃止するのではなく、何らかの形で保ちながら、少しでも水循環に活かしていければよいと感じる。 ・スライドP30にあるように、本計画を中心として施策を展開することを考えると、狭山池は国の史跡でもあり、扱いにくいところもある。歴史や狭山池を知らない人をどう呼び込んで学んでもらうかということ、いかに内外の人を呼び込むことで狭山池のにぎわいを作っていくかということにもつながる。逆に見れば狭山池の賑わいを創出することが歴史教育や文化の醸成にもつながる。 ・このような基本的な建付けは非常に良いと感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のため池の扱い方を位置付けることが、本計画策定上非常に重要な点の一つになると認識している。 ・スライドP33弱みにある「農業利用されず管理が不十分となっているため池などの存在」が一番大きな問題ではないかと感じている。ここ数年ゲリラ豪雨によるため池決壊の被害が全国的にみられ、やや安易にも感じられるが、国としては農業利用されていないため池は廃止する方向を打ち出している。 ・ため池には治水機能などもあり、廃止してよいかどうかは慎重に議論した上で判断が必要と考える。一方で、治水機能として活用する場合には、高齢化などの要素もあり農業者だけでは管理が難しいので、公共が自ら手を入れて管理をしていく必要も生じてくるのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は狭山池の水位が非常に低下しており、通常なら満水とする時期で、雨が予想される際には1m程度水位を下げてダムとしての機能を確保するところが、既に満水位から2m程度も低下している状態となっている。 ・水循環計画はこれから先の将来像を含むものであるため、このような短期間で現れてきている環境変動を踏まえた上で策定がなされるべきと考える。 ・水循環計画は総合計画的な位置付けになると考えるが、少なくとも、どの

委員	<p>ようにため池を使うのか、どのように具体的な施策を位置付けていくのかが必要になると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ため池の具体的な利用方法を水循環の中でイメージしながら計画を策定し、具体性を見ながら計画を策定することが、計画の実効性を担保する上で重要と考える。 ・スライドP18「水利組合等と連携した、ため池や農業用水路の保全等」、スライドP28「ため池、農業用水路なども活かした、複合的な防災対策の検討」とあるが、農業用水路を活かした防災対策というのは、用排水兼用になっているという認識でよいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・その認識のとおりである。都市化が進む前にため池や農業用水路が整備されていたこともあり当該ため池や農業用水路が一定の雨水排除の役割を担っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それであれば、治水においても農業用排水路などを上手く活用していくことは素晴らしい視点と考える。 ・計画を策定していく上で、狭山池という強力なシンボルが活用できると良い。 ・ありきたりな課題・方策だけでなく、大阪狭山市の特徴を活かしたオリジナリティのあるものになると良い。 ・下流域の大和川への貢献も大きいという視点が入ると、市民の方も誇りを持てるのではないか。 ・本計画はその場限りではなく、進捗管理もなされる長期的な計画になると考えているが、子どもの環境教育や増加する非農業従事者への啓蒙・普及も必要になると考える。 ・本計画の中でこれらに関する具体的な目標（例えば、イベントの開催数・来場者数など）があると、認知向上が定量的に測られ、達成度もわかりやすいのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を見て気が付いたところを3点あげておきたい。 ・1つ目は水環境施設の適正化の視点の部分。公園の利活用について議論すると、施設再編や機能をどう考えていくかという話になる。 ・本計画においても同様に、流域マネジメントの視点からの議論として、地域毎でニーズに応じて施設の再編・集約を行い、水環境の質の向上につなげていくということが必要になると考えている。 ・例えば、先程もため池にはいろいろな機能があるとの説明があったが、ど

	<p>のため池で、どのような機能を発揮させていくのかという議論や判断を本計画の中に盛り込んでいく必要があると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つ目は、水環境の未来への継承の視点。水環境学習の機会が不足しているという課題意識が提示されていたが、子どもたちに水環境をどのように継承していくかということを計画の中で大きな柱として位置付けることも重要と考えている。 ・3つ目はアンケートについて。年齢や地域、世帯構成などでどのような傾向が見られたかを分析して、計画の中に反映してもらいたい。 ・今後、計画を評価する際に、本アンケートの中で現状認識を聞くだけでなく、市民のニーズや満足度に関する設問があると、意識変化の把握につながるのではないか。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの説明・意見を踏まえても、本計画はため池が大きなキーワードになると考えられる。 ・全国的にもため池を軸にする水循環計画はなく、対外的なアピール力もある計画になるのではないか。 ・ため池がこのままでは地域の厄介者になりそうな印象がある一方で、消防用水の話のように、気が付かれていないような重要な役割も担っているという実態がある。 ・ため池を厄介者ではなく、地域の資産と位置付けていけるような計画であると良い。 ・水としての扱いを超えて、「にぎわい」や「まちづくり」といったことにつなげていくような方向性があるのではないかと感じた。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日予定いたしました議事等は、以上ですべて終了いたしました。ご協力ありがとうございました。
事務局	<p>10. 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆様には、長時間にわたりまして、活発なご意見をいただき、まことにありがとうございました。本日、多岐にわたるご意見、ご提案を頂戴しましたので、これらにつきましては、今回の計画はもとより、今後の業務全般にも反映させていただきたいと考えております。それでは、以上をもちまして、大阪狭山市水循環協議会 第1回を閉会とさせていただきます。 <p style="text-align: right;">(以上)</p>